

第 98 回 経営協議会議事要録

日 時：令和 6 年 9 月 26 日（木） 15：00～17：10

場 所：本部管理棟 5 階会議室及び Microsoft Teams の「経営協議会」チーム

出席者：受田学長、遠藤理事（総務・企画・危機管理担当）、津江理事（教育担当）、本家理事（研究・医療・評価・IR 担当）、堀見理事（地域連携・広報・ウェルビーイング担当）、大淵理事（財務・労務管理担当）、花崎医学部附属病院長、岩瀬委員、河合委員、北委員、野並委員、柳原委員、山崎委員、夕部委員

欠席者：池上委員、弘瀬委員

陪席者：岡谷監事、中澤監事、総務部長、財務部長、研究国際部長、学務部長、正木総務企画課長

〔配付資料〕

- 資料 1-1 役員の退職手当に係る業績評価について（案）
- 1-2 国立大学法人高知大学役員退職手当規則（抄）
- 1-3 役員の退職手当に係る業績評価について
- 資料 2-1 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書（令和 6 年度）（案）
- 2-2 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる実施状況（令和 6 年度）（案）
- 資料 3 知的財産の活用状況について
- 資料 4-1 国立大学法人高知大学職員給与規則等の一部改正について（案）
- 4-2 新旧対照表（案）
- 4-3 参考資料
- 資料 5 令和 5 事業年度財務諸表の承認について
- 資料 6 令和 7 年度概算要求のポイント等
- 資料 7-1 診療報酬改定に伴う医療従事者の賃上げについて（案）
- 7-2 （参考資料）【厚生労働省】令和 6 年診療報酬改定と賃上げについて
- 7-3 （参考資料）【人事院】令和 6 年人事院勧告・報告の概要

議事に先立ち、学長から新任の監事の紹介が行われ、岡谷監事、中澤監事から挨拶が行われた。

引き続き、第 96 回及び第 97 回経営協議会の議事要録（案）の確認が行われ、異議なく承認された。

〔議題〕

1. 役員の退職手当に係る業績評価について
学長から、資料 1-1～1-3 に基づき、役員の退職手当に係る業績評価について説明が行われた。審議の結果、承認された。
2. 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書（令和 6 年度）について
遠藤理事から、資料 2-1、2-2 に基づき、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書（令和 6 年度）について説明が行われた。学外委員で同報告書に意見等ある場合は、期限までに意見書を提出することの提案が行われ、了承された。

3. 知的財産の活用状況について

本家理事から、資料3に基づき、知的財産の活用状況について報告が行われた。

委員から、研究者に対する知財教育のあり方について検討する必要があるのではないかとの意見が出された。

4. 国立大学法人高知大学職員給与規則等の一部改正について

大淵理事から、資料4-1～4-3に基づき、国立大学法人高知大学職員給与規則等の一部改正について説明が行われた。審議の結果、承認された。

委員から、企業の現場レベルにおいて、クロスアポイントメント制度についてあまり認知されていないと感じるが、企業に向けて積極的な広報を行っていけば、本制度の活用が増えるのではないかとの意見が出された。

5. 令和5事業年度財務諸表の承認について

大淵理事から、資料5に基づき、令和5事業年度財務諸表の承認について報告が行われた。

6. 令和7年度概算要求について

大淵理事から、資料6に基づき、令和7年度概算要求について報告が行われた。

7. 診療報酬改定に伴う医療従事者の賃上げについて

大淵理事から、診療報酬改定に伴う医療従事者の賃上げについて概要の説明が行われた後、総務企画課長から、審議資料7-1～7-3に基づき詳細な説明が行われた。審議の結果、人事院勧告に伴う本学の給与改定内容が固まり次第、診療報酬改定に伴う医療従事者の賃上げにかかる給与関係規則の一部改正について、改めて開催する経営協議会（書面会議）において審議を行うことが承認された。

8. 大学運営に関する意見交換

「学長就任後の取組と学内の動きについて」をテーマとする意見交換が行われた。

各委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・地球温暖化等の環境問題によって米や野菜の不作が続く中、IoP 等高知大学の研究は食料安全保障の面でも価値があり、その価値についてトップセールスをはじめとして、広く広報してはどうか。
- ・各部局においてそれぞれ行っている業務の中で可能なものは中央一括で業務を行い、産み出された人員を別の業務に充てる等検討してはどうか。
- ・本学の経営的・財政的な現状について教職員に情報公開するとともに、教職員の危機感を醸成する必要があるのではないか。一方で、国立大学の研究者に対して危機感を持たせることが果たして良いことなのかは、慎重に検討する必要がある。
- ・高知大学の価値を感じてもらえるブランディングをどのようにしていくかを検討する必要があるのではないか。
- ・研究推進の財源確保については、複数の民間企業からの出資を募ってみてはどうか。

以上